

令和2年度 第2回 第3次加西市男女共同参画計画策定委員会

日時：令和3年3月1日（月）13：30～

場所：加西市役所1階・多目的ホール

協議事項1 第3次加西市男女共同参画計画の進捗状況について 【事務局より説明】

中村委員長

資料において、例えば男性にとっての男女共同参画の推進では、男性向けの育児・家事支援講座の実施をふるさと創造課と地域福祉課が担当されています。しかし、福祉の部門の業務は起きたことへの対処に重点が置かれているため、啓発業務は向かないのではないかと思います。啓発まで手が回らないと、地域福祉課の方が正直に書いていただいております。これが次期プラン策定時に精査されないといけないと思います。

役割分担が重要であり、啓発はどこでもやるのではなく、ある部門が責任をもって行い、それに対して他部門は協力しますという方向でよいと思います。

また、気になるのは、D判定がついているところです。D判定がつくには理由があると思いますが、今度のプランではB判定くらいまで行く仕組みづくりが必要だと思います。

副委員長はご意見いかがでしょうか。

金澤副委員長

おっしゃることは分かるのですが、行政のそれぞれの仕事を理解しきっている訳ではないため、コメントが難しいです。地域福祉課にこれは無理だ、といえるだけの知識がありません。

中村委員長

ポイントとして、これはスタートラインであるということです。このプランは5年前にたてたものなので、評価は非常に大事です。ただ、できてないというのは簡単ですが、できていないというのは何かしら理由があります。そこが私はシステムの問題だと思います。3次計画ではそこを考えていけたらと思っています。

沼澤委員

ざっくり見せていただいて、例えば基本目標2で未着手という区分が多いです。もちろんコロナの関係もあろうかと思いますが、何か理由があるのでしょうか。

もう一つは基本目標3の育児・家事支援講座の実施についてです。男性の方向けにセミナーを行政で開いても男性の育児・家事支援につなげていくのは難しいのではないのでしょうか。というのも、実際には働きに出ている人がほとんどであるため、企業への働きかけを

していかないと難しいのではないかと思います。男性の育児支援を考えておられるのなら、育児休暇のいわゆる補助金、助成金の制度がありますので、そういった制度の周知ができれば、企業もやってみようかとなるのではないのでしょうか。例えば、中小企業では、男性を5日以上休ませると57万の支給があります。過去3年間の生産性があがるとプラス15万円もらえて、合計72万円の支給が20人まで可能です。できるだけどうですかという意味で啓発などされると、よいのではないのでしょうか。

中村委員長

国は色々施策を打っていますが、結局行政が企業に啓発、説明ができていないかどうかということですね。今沼澤委員がおっしゃっていたことも知らない人が多いと思います。

沼澤委員

例えば5日休んだ中に日曜日が含まれていてもよいので、4日育休をとると、男性は育休の手当てがもらえます。助成金が出るのは後なのですが、お祝い金も併せて出せます。男性の方は4、5日育休がとれて、しかも7割の補助金をもらい、お祝い金ももらえます。企業も自分のところに補助金が出る。これは一例ですが、PRをして企業の方から考え方を変えていくのも一つかと思えます。

中村委員長

その通りだと思います。今のプランでは行政側がそこへ踏み込んではいないということですね。第3次ではそこも視野に入れたいですね。お父さんの子育て参加は国も本気でやっています。企業も本気です。ただ、中小企業の場合は人員が少ないため、お金は入っても業務が動かず、損失が大きいという問題はあると思います。

基本目標2で未着手が多い理由を、事務局お願いします。

事務局

基本目標2ですと、女性就労支援センターの設置、ワーク・ライフ・バランスの推進企業の奨励、子育て中の女性に配慮したシェアードオフィスの整備、クラウドファンディングサポート事業というあたりかと思えます。

これらの事業は、ハード面の整備が伴う事業であり、行政を進めていく上では、整備する際の予算措置、整備した後の人員配置をどうするかが絡んできます。現状、人員が限られている中で新たに整備し、マンパワーを投入して実施していくには、難しい部分があります。行政では、既存のセクションでソフト的に事業を行う分は対応しやすいのですが、新たなセクションを設けて人を配置していくのはハードルが高いというところで、この結果になっていると思います。

中村委員長

外部資本をうまく使えばいいのではないかと思います。男女共同参画センターでイーブンがやっている働き方セミナーを定期的にやることができます。

最近、ハローワークが外部に出張して相談を行っていますので、ハローワークに行くのではなく、市の施設を使って行えば、女性就労支援センターを設置しなくてもクリアできると思います。ハローワークは最近出張をよくやってくれます。丹波市かどこかでも、シングルマザーのための就労相談を特化して行っていたり、男性も含めた相談をやっています。

おっしゃる通り、人員は必要で予算はつけなければいけない、となると大変なので、もっとうまくやれる仕組みづくりができればよいのではないのでしょうか。

事務局

実はふるさとハローワークなどと一緒に女性の就労相談は行っているのですが、女性就労支援センターの設置が達成できているか、という点でとらえると、担当がそこまでは行っていないと評価しているところがあると思います。

取り組める部分に関しては、イーブンの女性就労相談も年一回行っているのですが、なかなか参加者が少ないという現状もあります。情報の発信の仕方などを今後考えていかなければいけないと思います。

中村委員長

それもその通りだと思います。情報は市民になかなか届きにくいので、届けていただきたいと思います。時間が来ていますが、みなさまよろしいでしょうか。

事務局

先ほどの補足で、第2次のプランは10年前に策定したものであり、取り組みが必要な事業の内容自体が社会の流れにあっていない事業もあると個人的に思います。PDCAのチェックとアクションが計画策定後に大切どころになってきます。現行のプランに関しては、評価が今まで全くできていない状況でした。第3次のプランを策定するに当たっては毎年評価検証を行い、庁内での各部署への意識づけも進めていきたいと考えています。

中村委員長

それではアンケート調査の結果報告に移ります。ジャパン総研よりお願いいたします。

協議事項2 アンケート調査の結果報告 【ジャパン総研より説明】

中村委員長

ありがとうございました。一つだけ確認です。報告書本編の3ページ、今回のアンケート

の属性が、60代以上の方で47.1%です。ほぼ半数が高齢者の方のデータであるということ踏まえて全体を見た方がよいと思います。男女はほぼ同数になっています。60代以上といえば、昭和の人間です。平成になり、令和になり、グローバルな世の中になっている中で、未来を語る時、データを見るときに年代別で見てほしいなと思っております。

馬渡委員

60代以上の方が半数近くおられるということですが、アンケートの取り方が2,000人に対して無作為抽出です。年代別、地区別の中の無作為抽出であるならば、60代以上の母数自体はすでに多いと思うのです。送った数も返ってくる数も多いです。

アンケートの取り方として、返ってきにくい、声をたくさん聞きたい年代の数が多くなるようにした方がよいと思います。これに限らずほかのアンケートもそうなのですが、例えば送る数を同じにするなどした方がよいのではないかと感じました。

中村委員長

データとしての信ぴょう性となると、今のやり方で行う必要があります。今はほぼ900件返ってきており、半分が高齢者とする450件は現役世代で取れているのです。データはデータとして、プランを立てる時には子育てに関する内容では、今子育てしたり、これから子育てをする方の意見を踏まえてプランを立てるべきだと思います。それは年代別にデータを読むというところで何とかクリアできるのではないかと思います。

馬渡委員

10代が14件位だとすると、まだ詳しく分かっていない世代ではありますが、送っている数も少ないのだろうなと思います。

中村委員長

おっしゃることはその通りだと思います。あとはプランを立てる時に、事務局が数字のどこを読むかということだと思います。

事務局

経年による比較という部分においては、前回と同じ取り方をしないと、10年前との比較を行った際に違う解釈になる可能性があります。委員長が言われたように、詳細の部分の中で、現役世代がどう思っているのかを見ていき、補足でワークショップでの意見を検討できればと考えています。

馬渡委員

前回の割合は分からないのですが、年代による違いが顕著だと思います。年代ごとに割り

戻す方が正確に比較することができるのではないのでしょうか。

兵庫県のデータを見ていても、回答に差がありました。加西市の調査と聞いている年代が違うのではないのでしょうか。聞いている年代で割り戻す方が正確に比較できるのではないかと思います。

また、アンケート結果についてですが、社会全体としては男女共同参画についてよく言われているため、ジェンダーについてもだんだん浸透してきていますが、それでも男らしく、女らしくという考えが根強くあると自由記述を見ていても感じます。大事にするべきはその人らしくいることという点で、親の立場からすると例えばもっとたくましくあってほしいという考えがあったとして、それは男だからたくましく育ててほしいというよりは、親の願いとして伝えたらよいのかと思いました。男だからとか男でも、と、ちょっとした言葉の使い方を大事にしたらよいのではないかと思いました。

中村委員長

特に子どもに言う時はどうしてもフィルターがかかってしまうのですよね。女の子に言うたくましさや男の子に言うそれは少し質が違いますし、優しさもそうです。お母さん方とワークショップを行った時、男の子に求める優しさは、女の子を守る強さをもってというのがあり、女の子は自分を抑えて他者優先の優しさをもって、というのがありました。ちょっと気を付けると家庭生活も変わってくると思います。

沼澤委員

何人かの方が自由回答に書いているように、アンケートの内容が難しかった、全体的に量が多くて時間がかかったという中で、回収率が前回の40%から今回は45%であったということは皆さんが非常に几帳面に書いていただけたと感心しております。

2点気になった点があり、1点目はアンケートを聞く際に、男性女性のほかにその他の項目を設けられたと思うのですが、表に出される際に、男女で分けておられます。その他が全くなかったならば、表の下にその他はなかったなど記載しなくてもよいのでしょうか。

中村委員長

0.2%というのは何でしょうか。

事務局

0.2%は不明・無回答の方で、その他回答の回答数は0件でした。冊子の2ページ目に性別の回答を記載していますが、その他の回答が0件であったため分類ではその他を省いた状況があります。報告書にはその旨を追記します。

沼澤委員

せっかく今ジェンダーやいろいろな問題が出ている中で、その他の項目があるので、何かしら記載がある方がよいと思いました。

2点目ですが、男女共同参画の言葉が難しく、わからないという回答がたくさんあります。これは言葉自体がわからないのではなく、その言葉を使つての活動が少なくて周知がされておらず、インパクトとしてその言葉が入っていないのではないかと思います。

例えば育児介護のところ、15 ページの下のグラフで、男性が育児休業を取りやすい職場環境の整備を備えてほしいという答えが一番多いです。ところがそれに対して、こういうのがありますという全面的なバックアップのフォローがなされておらず、14 ページのデータの結果でも書かれているように働き方の普及等の環境面の整備が必要である、といったところに持ってこられるのではないかと思います。いろいろな場面でこの名前を出していくことにより、男女共同参画という言葉が難しいものではなく、スムーズに入ってくるのではないかと思います。

中村委員長

ありがとうございます。行政のやっていることは見えにくく、言葉も含めて、市民に届きにくいです。母親が倒れた、どうやって介護をするのかという時には、地域包括支援センターへ行けば、そこで自分たちも知識を持てるけれど、行政が何をやっているのかというのはなかなか見えず、そこがネックだと思います。どうやって見える化するのかが大事ですね。

事務局

確かに男女共同参画という言葉については、なかなか難しいというとらえ方が多いと思います。色々な講演会も実施しているのですが、あえて男女共同参画と書かないこともあります。というのは、冠に男女共同参画とついてしまうと、難しいから行かない、という感覚になることがあるためです。これを変えていかなければいけないのはもちろんですが、興味を持っていただくという面においては、やわらかいタイトルで興味を引いていこう、まずは参加していただこうと進めてきたところもあります。今ジェンダーという部分では社会の中で意識が大きくなっていますので、その部分は今後どう表現し、理解していただくのか、考えていきたいと思っています。

中村委員長

私の方から一枚資料をお渡しさせていただきます。LGBTQ と SOGIE についての紙です。SOGIE についての認知度があまりに低いので、準備をしました。LGBTQ については最近 Q が入り、クエスチョニングで不明、わからない、性的指向も性自認も不明という Q が加わっています。

SOGI というのは Sexual Orientation Gender Identity というのですが、Sexual

Orientation：性的指向、Gender Identity：性自認、それに最近付け加えてほしいのがE、Gender Expression：性表現です。LGBTQ と SOGIE の差は何なのかというと、LGBTQ はセクシャルマイノリティと線を引くような考え方です。SOGIE は、それぞれがそれぞれの性的指向や性自認、性表現があり、すべてが含まれる、ラインを引かないという考え方です。線を引いて、マイノリティの方を理解しましょう、と、人権感覚でいうとおかしいですね。国際的には SOGIE を最近使っています。委員の方もぜひ周囲に広めてほしいと思っています。

意識調査についてはよろしいでしょうか。次にワークショップについて、お願いいたします。

協議事項3 ワークショップ結果報告 【事務局より説明】

中村委員長

若い方の声がまとまるのは、これがまたプランに活かされたらいいと思います。

7日に宍粟市でフォーラムをするのですが、パネラーで女子高校生がいます。彼女に宍粟市にずっといたい条件とは何か聞くと、素敵な働くところがあることと答えました。それは給料が高いのはもちろん、チャンスが男女に同等に与えられるところ、平等に評価してもらえるところ、そういうところなら私は宍粟市で働き、結婚して家庭を持ちたいと言うのです。豊岡市はここにもものすごくお金を使っています。若者を、男性も含めて外に出さない、というのを男女共同参画でやっています。

その他 意見交換

谷勝委員

アンケートを見せていただいて、年代別の心の移り変わりをとらえることができました。上手にまとめてくださり、ありがとうございました。

私も男女共同参画をさせていただいて30年たっても同じことをやるのかと思っておりました。アンケートは、H23の時にも参加させていただき、意見を出させていただいたが後の返答がなく終わったように思います。書類を見てその現状だけで終わるのではなく、そこから活動へ動いて行かなければならないです。それができておらず、あきらめの境地に入るところがあります。

子育ては男女の共同事業です。お父さんだけでも、お母さんだけでもなく、共同でやる必要があります。もっと前向きに先を見て子育てをしていく、学校関係も職場もそうです。市の職員にははっきりと、男尊女卑だと言います。何がそういう言葉に当てはまるのか、加西市はあまり感じていらっやらないです。昔から言いますが、悪いことをしている人は自分が悪いことをしているから、これはいけないと思うのですが、悪いことをしている自覚のな

い人はそれ以上は望めないですから、私たちも男女共同参画については途中で、男女平等にしようか、など色々な意見が出ましたが、何をもってそれをやっていくのか、大きな課題であり、一人一人が幸せになることに向けて、ぜひ力と財力とを注ぎ込んでいただきたいです。

淵脇委員

質問ですが、国と県と市と比較をされている項目がありますが、質問の内容は一緒なのでしょう。それともニュアンスは同じですが、細かくは違う点もあるのでしょうか。

事務局

すべての質問項目が国と県の質問項目と一緒にという訳ではないですが、基本的には同じです。

中村委員長

ほぼ、文言も同じですね。

淵脇委員

何故その質問をしたのかというと、内閣府と加西市は割と近い結果が出ているのですが、兵庫県がかけ離れています。どちらかに問題があるのかなと思っています。

もう一つ質問があるのですが、このアンケートはコロナ禍の影響を受けているのでしょうか。過去にこういった経験をしたことがないです。その中でアンケートを取られているのですが、このアンケート全体を通して影響は出ているのかどうか、出ているならどのあたりに出ているのかという視点で見るのも何か見えてくるのではないかと思います。

中村委員長

女性の就労などはそうかもしれませんね。

竹内委員

息子2人がおります。子育て中は色々つながりながらやってきましたが、どうやってつながっていくのか、二人目であっても、やることはすべてはじめてです。二人とも社会人になっていますが、どれが正解なのか、過ぎてみないとわからないです。男性はこうしないとだめだとかいうのはあまり関係なく、その時にその人がいいと思うことをできればよいと思います。

河原委員

小さな子どもたちが初めて過ごす集団であるこども園ですが、何気なく保育教員自身が男女を分けていることに気づきました。小さな頃からのちょっとしたことで気づきをし

っかり感じて関わっていくことが大事だと感じました。

毎年入園の申し込みの期間があるのですが、0、1 歳児の申し込みが大変集中します。その理由は、育休が1年取れないといったことがあり、沼澤先生のお話であった中小企業などの補助金制度もあり、例えば2歳までは家庭で見ましようということが根付くと、親子の触れ合いももっとゆとりあるものとして保護者も子どもと関わるのが楽しい、嬉しいといった意識につながるのかと思いました。

安富委員

前回は欠席しており、議事録を読んでぜひ参加しなければいけなかったと思いました。なぜかという、私は学校教育の現場で、中村委員長のお話の中に、女性校長の率が上がらないという話がありました。実際加西市の状況を見ておきますと、来年度はおそらく誕生するだろうと思いますが、現在女性校長は0人です。私が一般教員の時の経験ですが、女性の管理職の先生が我々の視点とはまた違うところから職員に対して声をかけられていました。きめ細かいリーダーシップで心強かったです。女性管理職の視点から地域を巻き込み、保護者からの理解を得て、教職員の働き甲斐のある職場を作ることが大事だと思います。ただ、今申しあげましたように女性校長は0人で、教頭は小中通じて32人の管理職のうち4人です。平成28、29年度は全くの0であり、兵庫県でも加西市のみでした。ただ、校長教頭の下に教諭のリーダーである主幹教諭という役職があり、57.1%が女性です。

学校教育の場では女性が大きな部分を担っていますが、今後はそれを超えた、責任を持つような環境ができたらいいいと思っています。そのために必要な我々の仕事は、女性管理職が働きやすくなるような環境作りです。小さなこと言えば、教頭になると学校の草刈りをしなければならないのですが、2代前の教育長がこれは管理職の仕事ではないということになり、今はシルバー人材センターの方に来ていただいております。些細なことではありますが、そういった具体的なことを進めており、先生の意識が変わることで子どもたちの育ちも変わると思いますので、また参加させていただいてどんどん勉強したいと思いません。

廣瀬委員

私は加西市在住ではないのですが、加西市の社会福祉協議会で働いております。私は職場での年数が下の方なのですが、人の意見を取り入れてくださるところがありがたいと感じています。男女関係なく意見を取り入れながら地域がよりよくなるように検討できます。年齢、男女関係なく色々な人が色々な意見を言い合える地域が必要だと思います。意見を言にくい年代層もありますので、何でも気軽に言える場が必要だと大事だと感じております。

金澤副委員長

アンケートで県と加西市の数値が異なるという点については、年代の高い人の回答率が高いという話があったように、田舎の方が回答率が高いと思っています。私は山奥に住んでいるのですが、物を集めるとまず100%集まります。それと同じで、兵庫県の結果は田舎の方が回収率が影響しているのではないかと思って読んでおりました。あくまでも私の推論です。

私自身本日この会議に出席して、一番印象に残っているのは最初の委員長の講話です。大変良い勉強になりました。

また、資料を事前にいただき、一生懸命読みましたが正直途中で断念しました。アンケートの自由回答はある意味自分の視点でのみ書かれているので、正直に言うと気分がよくなかったと思って読んだところもあります。資料が多いのは仕方ありませんが、もしできればもう少し早めにいただくとありがたいです。

10年前と比較して、確かによくなっているのはありますが、10年たってこの位か、というのが私の印象でした。よくなってきているのでこのまま歩みを続けていかなければいけないと思いますが、もう少し早く前進できるような取り組みができればよいと思います。今やっと、アンケート結果が出てきていろいろな問題点が浮かび、今度は実行に移していく段階に進んでいきますので、これからしっかり意見を出し合ってよりよい方向に進めたいと思います。

以上、本日はありがとうございました。

以上